

交野市剣道連盟会員募集

交野市剣道連盟ホームページもご覧ください。旭小・郡津小・岩船小・倉治小・妙見坂小・武道館。詳細は事務局。

☎石倉 ☎892-0219



交野女声合唱団

おちゃめな先生と愉快的仲間が待っています。毎週土曜9:30~12:00。青年の家。入会1,000円。月3,000円。

☎槇 ☎892-6430

広報紙配信アプリ「マチイロ」

スマートフォン・タブレット用アプリ「マチイロ」で広報かたのを配信しています。ぜひ、ご利用ください。

アプリのダウンロード「マチイロ」で検索またはホームページ



http://machihiro.town/lp/osaka_katano/

あなたも「3B体操」で健康づくり

楽しく無理なく生涯元気に。無料体験可。毎週金曜10:30~12:00。星田出張所。おおむね60歳以上の女性対象。入会1,000円。月2,000円。

☎梅田 ☎892-5292

姿勢美人ヨガ

初心者歓迎。無料体験有。楽しく身体を整えます。毎週水曜10:00~11:00・金曜13:00~14:00。青年の家。月4,000円。

☎鈴木 ☎080-1490-1482

国際交流・外国語で自己実現

交野市の国際化を目指し、一緒に活動しませんか。交野会館で随時開催。入会1,000円。月2,000円。

☎国際交流協会 ☎894-1113

9月号の締め切りは7/31(水)



当コーナーに掲載している内容は市民・団体が主催しています。

仲間募集

アンサンブルかたすい

交野市の吹奏楽団です。Cl・Hr急募。毎週日曜9:30~12:00。青年の家。中学生以上対象。月1,000円。

☎三原 ☎891-9855

ホストファミリーを募集



姉妹都市のカナダ・コリングウッドの市民を招いて親善交流を行います。滞在中にゲストのお世話をしてくれる家庭を募集します。

日時 11/5(火)~10(日)の6日間

内容 宿泊、食事、記念式典や歓迎会参加、市内外案内、所定場所への送迎など

☎電話・Eメールで7/1(月)~8/31(土)に交野市国際交流協会

☎894-1113 ☎katano_ifa@yahoo.co.jp



▲獅子窟寺から見た天野川(ライン内が現在の天野川)

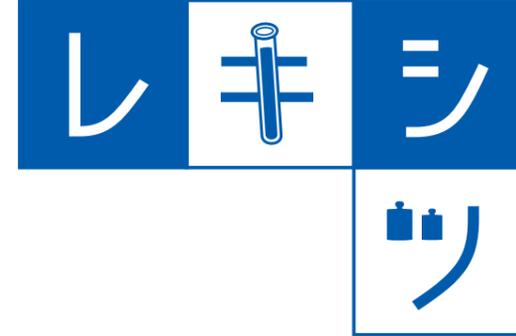
7月は七夕の季節です。交野では各地に七夕伝説がありますが、これらの伝説を生み出したのが市内を南北に流れる天野川です。その名の通り、星空の天の川になぞらえられてきた、この「天野川」という名前。これが定着した理由にも、地質が関係します。

江戸時代の学者である貝原益軒の紀行文『南遊紀行』で、益軒が交野を訪れた際、私市の山寺である獅子窟寺に登り、そこから天野川を見て「天上の銀河の形の如し」「かくのごとく白砂のひろく直にして、数里長くつづきたるはいまだ見ず」と紹介しています。

天野川の名前は平安時代には定着していましたので、当時の貴族が歌に詠んだ天野川も、益軒が見たものと同じように白い砂が広がりながら、真っすぐに流れる川の姿だったのでしょう。

この白い砂の正体はというと、先月号でも紹介し

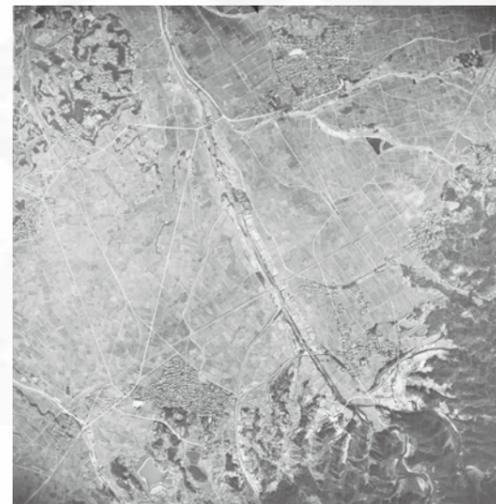
歴史×地質



た花崗岩が風化してできた真砂土という白い砂です。交野の山々は花崗岩でできていますので、そこを流れる天野川に真砂土が堆積し、白い砂の上を流れる川となったのです。

もう1つ、真っすぐ流れる川になった理由にも地質が関係しています。『交野市史自然編』では、直線的地質的弱線(侵食されやすいところ)が確認できると紹介しています。これは、その付近に存在するとみられる「岩船断層」という地層のずれによりできています。この地質的弱線が直線的であったため、真っすぐの川が生まれたのです。

もし、交野の山々が花崗岩の山ではなかったら。もし天野川付近に地層のずれがなかったら。この川は別の名前になり、交野に七夕伝説はなかったのかもしれない。



▲真っすぐに流れる天野川(昭和23年の航空写真)



▲天野川の真砂土

- 俳句会
 - 交野俳句会
 - 自転車の少女のリボン初夏の風 森井富美子
 - 若葉風積迎の横顔吹き抜ける 岡田義憲
 - ゆらゆらとゆるる竹垣猫渡る 笠岡敏子
 - お目当ては軒の子燕園児来る 千田るり子
 - 賑やかに燕間借りの軒端かな 岡田朱美
 - 若楓開く句帳に日の斑揺る 上田常子
 - 寄り添へるわらべ地蔵や苔の花 松崎幸子
 - 聖五月不戦のねがひ「令和」へと 横幕風子
 - つばめの子貌より広き口で待つ 鶴田泰子
 - 昨夜の雨に黒牡丹崩れをり 藤原晴美
 - 畳み皺の顔を歪めし武者職 紙上よし子
 - 雨もよひ今日はな飛びそ燕の子 竹廣信之
 - 一般
 - 桜舞うホームで土産鳩サブレ 小林キミ子
 - 鐘巡行車輪の歴史に思ひ馳せ 土井正臣
 - 短歌
 - 一般
 - 中継に五山の送り火が消ゆる頃 田中宏子
 - 供花と盆菓子川へと流す 鈴木純子
 - ひまわりは夏の太陽押し上げて 「次は私」と競い咲きいる 島文字
 - 初孫に逢いたい見たい じじばの喜びに乗せて超特急

- 川柳
 - 交野川柳会 句題「屑」
 - 綿くずは隅へ隅へとかくれんぼ 喜田香代子
 - 地球発宇宙遊泳屑屑 桑原宏子
 - メモ取るも屑籠探す高齢者 阪長敏
 - 本当に大事な物であるのかな 世古正二
 - 屑籠にもつたない花を活け 藤本克子
 - 技量の差透かして見せる鈍屑 長谷川玉枝
 - 屑籠をひっくり返して500円 村山敦子
 - 屑かこへナイスシユートの書き損じ 村山紀子
 - さくらの会 題「本」
 - 売れないねが嘆いております 山崎かず子
 - 古本を送り離島の酒屋く 岡田慶子
 - 絵と活字空想世界へ飛んで行く 福井隆子
 - 美容院ゴシップ記事読みお洒落する 長崎八重子
 - 図書室へ日参父の健康法 勝山ちよ子
 - 愛想ないおっちゃんはたき振り回す 内田好子
 - 古書店の時は動かぬまま夏へ 嶋澤喜八郎